

**dB**Technologies

# VIO L208







2-Way アクティブ ラインアレイモジュール

取扱説明書











## 安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

 <b>警告</b> 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	
 電源プラグをコンセントから抜く	<p><b>万一、異常が起きたら</b>  <b>煙が出た、変なおいや音がするときは</b>  <b>機器の内部に異物や水などが入ったときは</b>  <b>この機器を落とした、カバーを破損したときは</b>            すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。            異常状態のまま使用すると、火災/感電の原因となります。            販売店またはティアック 修理 センター (巻末に記載) に修理をご依頼ください。            万一、煙が出ていたり、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。            すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。            煙が出なくなるのを確認して、販売店まで修理をご依頼下さい。</p>
 指示	<p><b>電源プラグにほこりをためない</b>            電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災/感電の原因となります。            定期的(年 1 回くらい)に電源 プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 禁止	<p><b>電源コードを傷つけない</b>  <b>電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きしない</b>  <b>電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない</b>            コードが傷んだまま使用すると火災/感電の原因となります。            万一、電源 コードが破損したら (芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック 修理 センター (巻末に記載) に交換をご依頼ください。</p>
	<p><b>専用の電源コードを他の機器に使用しない</b>            故障、火災、感電の原因となります。</p>
	<p><b>交流100ボルト以外の電圧で使用しない</b>            この機器を使用できるのは日本国内のみです。            表示された電源電圧 (交流 100 ボルト) 以外の電圧で使用しないでください。            また、船舶などの直流 (DC) 電源には接続しないでください。            火災/感電の原因となります。</p>
	<p><b>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し (20cm 以上) 離して設置する隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</b></p>
	<p><b>この機器の通風孔をふさがない</b>            通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>
 禁止	<p><b>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない</b>            内部に水が入ると火災/感電の原因となります。</p>
 分解禁止	<p><b>この機器のカバーは絶対に外さない</b>            カバーを外す、または改造すると、火災/感電の原因となります。            内部の点検/修理は販売店またはティアック 修理 センター (巻末に記載) にご依頼ください。</p>
	<p><b>この機器を改造しない</b>            火災/感電の原因となります。</p>

## 安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	<p><b>警告</b> 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
 <p>指示</p>	<p>設置の際は、資格や経験を持った人(専門業者)に必ず依頼する 天井や壁掛け設置、床などに設置の際は、設置場所の強度を確保する 使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。 天井/壁/柱/床などに設置する場合は、設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。</p>
	<p><b>注意</b> 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災/感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となる場合があります。</p>
 <p>指示</p>	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続する また、接続は指定のコードを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、専用の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災/感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災/感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。</p>
 <p>注意</p>	<p>5年に1度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック 修理 センター (巻末に記載) にご相談ください。 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。</p>

## 目次

安全にお使いいただくために.....	2
目次.....	4
商標および著作権に関して.....	4
はじめに.....	4
本製品の構成.....	4
本書の表記.....	4
別売りアクセサリ.....	5
結露について.....	5
製品のお手入れ.....	5
ユーザー登録について.....	5
設置上の注意.....	5
アフターサービス.....	5
本機の概要.....	6
設置方法.....	6
ラインアレイ構成による本機の連結.....	6
吊り下げ設置 (FLOWN INSTALLATION).....	7
床置設置 (STACKED INSTALLATION).....	12
各部の名称.....	14
電源パネル.....	14
コントロールパネル.....	14
電源および外部機器との接続.....	15
電源と電源リンクの接続.....	15
オーディオ信号とRDNetの接続.....	16
RDNetネットワーク接続によるリモートコントロール.....	16
適合ケーブル.....	17
ラインアレイ構成時におけるDSPプリセットの設定と最適化.....	17
dBTechnologies Composerソフトウェアについて.....	18
dBTechnologies Composerのダウンロード先.....	19
dBTechnologies Networkについて.....	20
dBTechnologies Networkのダウンロード先.....	20
リモート機器の取扱説明書ダウンロード先.....	20
アクセサリの取扱説明書ダウンロード先.....	20
F/Wアップデート	
(USB Burner Manager ソフトウェア).....	20
トラブルシューティング.....	21
仕様.....	21
一般.....	22
寸法図.....	22

## 商標および著作権に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- Neutrikは、Neutrik AGの登録商標です。また、powerCON およびTRUE1は、Neutrik AGの商標です。
- DigiproはAEB INDUSTRIALE SRLの商標です。
- dBTechnologiesはA.E.B Industriale SRLのそれぞれの国における商標または登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

## はじめに

このたびは、dBTechnologies VIO L208をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、未永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

- 取扱説明書(日本語)は、TASCAMのウェブサイトからダウンロードすることができます。

<https://tascam.jp/jp/>

- 最新版の取扱説明書(英語)については、dBTechnologiesのウェブサイトのダウンロードページから、“VIO”の項目を選択し、上段“Manuals”の列から対象となるPDFファイルをダウンロードしてください。

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

## 本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

### 同梱物

- 本体 (VIO L208)..... × 1
  - 取扱説明書(本書、保証書付き)..... × 1
- ※ 本製品には、電源コードが付属されておりません。  
専用電源コードに関するお問い合わせは、タスカムカスタマーサポート(巻末に記載)までご連絡ください。

## 本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン/端子などを「POWER」のように太字で表記します。
- 本機のディスプレイに表示される文字を“MAIN”のように“ ”で使って表記します。

### ヒント

本機を、このように使うことができる、といったヒントを記載します。

### メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

### 注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

## 別売りアクセサリ

輸送や本体設置のために下記の別売りアクセサリが、ご使用になれます。

- **DRK-208** : フライバー  
(吊り下げフレーム : 最大荷重 260 kg)
  - **AF-VIO1** : フライバー / スタック 兼用 フレーム  
(床置時 : 最大 4 台 / 吊り下げ時 : ラインアレイ 構成による (※))
  - **TF-VIO1** : VIO L210 専用吊り下げフレーム  
(吊り下げ時 : ラインアレイ 構成による (※))
- ※ dBTechnologies Composer ソフトウェアを使用して、設置するラインアレイ 構成に適した数量を確認してください。  
(dBTechnologies Composer ソフトウェアについては、[18 ページの「dBTechnologies Composer ソフトウェアについて」](#)を参照してください)
- **DT-VIOL208** : トローリー  
(運搬用台車 : 最大 4 台まで積載可 固定 ベルトが付属)
  - **DPTC-70L** : 電源 リンク 用 ケーブル  
Neutrik 社製 powerCON TRUE1 LINK ケーブル (70 cm)
  - **DPTC-2000MJP** : メイン 電源用 コード  
Neutrik 社製 powerCON TRUE1 電源 コード (20 m)
  - **DPTC-1000MJP** : メイン 電源用 コード  
Neutrik 社製 powerCON TRUE1 電源 コード (10 m)
  - リモート 機器 (ラインアレイ 時の制御用)  
**RDNet Control 2** : 2 系統 / 最大制御数 64 台 (1 系統 / 32 台)  
**RDNet Control 8** : 8 系統 / 最大制御数 256 台 (1 系統 / 32 台)

## 結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約 1~2 時間放置してから電源を入れてお使いください。

## 製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。  
化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

## ユーザー登録について

TASCAM のウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

<https://tascam.jp/jp/login>

## 設置上の注意

- 設置は、資格や経験を持った人(専門業者)が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 本機の動作保証温度は、摂氏-5度~50度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。
  - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
  - 極端に温度が低い場所
  - 湿気が多い場所や風通しが悪い場所。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- 熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機の近くに大型トランスを持つ機器がある場合にハム(うなり)を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くで本機を動作させると、テレビ画面に色むらが出る、またはラジオからの雑音が出ることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発進時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。

## アフターサービス

- この製品には、保証書が添付(巻末に記載)されています。大切に保管してください。万が一販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無料修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店/ご購入日が確認できるものを一緒に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、保証書に記載の無料修理規定によりティアック 修理センター(巻末に記載)が無料修理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理については、お買い上げの販売店またはティアック 修理センター(巻末に記載)にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、お買い上げの販売店またはティアック 修理センター(巻末に記載)までご連絡ください。
- 修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責については、ご容赦ください。
  - 型名、型番 (VIO L208)
  - 製造番号 (Serial No.)
  - 故障の症状 (できるだけ詳しく)
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

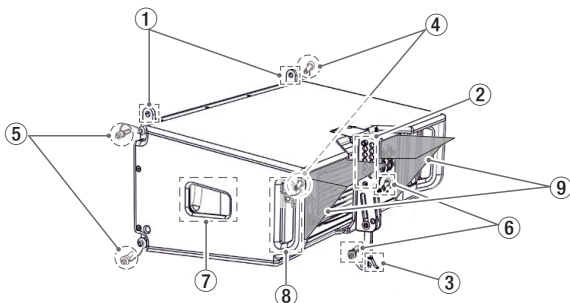


## 本機の概要

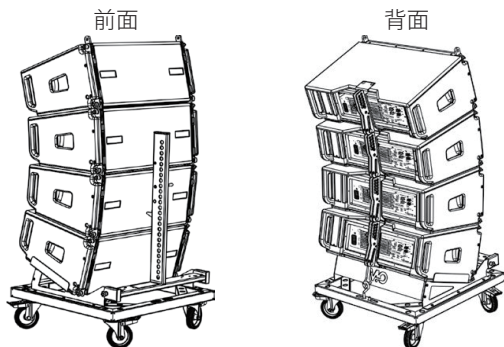
dBTechnologies VIO L208は、2-Way アクティブ ラインアレイモジュールです。

1個の1.4インチ コンプレッションドライバーに2個の8インチウーファーを搭載し、パワフルでシンプルなラインアレイ構成は中規模および大規模の屋内/野外 ライブ 会場向けに適しています。フライングやグランドスタックにおいて、簡単かつ正確に設置が可能な機構設計を採用しています。

- 実用最大出力 1800 W(RMS出力 900 W)を実現するクラスDのDigipro G3アンプを搭載し、アンプ部はDSPが管理する制御機能によって、ラインアレイ構成を最適化することができます。
- RDNet 接続(\*)によって、ラインアレイ時に構成と設定を細かくコントロールすることができます。
- ※ 別売りのリモート機器 [RDNet Control 2]または[RDNet Control 8]が必要になります。詳細は、リモート機器の取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。(20ページの「dBTechnologies Network について」を参照)
- ラインアレイを簡単かつ確実に組立/解体できるよう、下記の機構を装備しています。
  - 本機のフロント上部には、ビルトイン機構の格納式ブラケット(下図①)とフロント下部に接合用の取付け穴を用意しています。
  - リア部には、本機の角度設定用の目盛り付きブラケット(下図②)とスイング式ブラケット(下図③)を装備し、本機の全ての結合は、クイックリリース・ピン(下図④⑤⑥)で接合します。
  - 本体の両サイドのセンター(下図⑦)とリア(下図⑧)のハンドルは、設置の移動や持ち運びの際にご使用ください。また、本体リア側に雨天時でも使用可能にするレインカバー(下図⑨)を装備しています。(以降のイラストは、図を分かりやすくするために省いてあります。)



- 連搬が容易な搬送用台車(最大4台まで積載可)も、別売りでご用意しています。下図は、吊り下げフレーム(フライバー DRK-208)と台車(トローリー DT-VIOL208)を組み合わせた連搬用の構成例です。



詳細は、アクセサリの取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。(20ページの「アクセサリの取扱説明書ダウンロード先」を参照)

## 設置方法

最終的なラインアレイの特性や必要な角度が決まったら設置を始めてください。その際、すべてのオーディオ入力の感度が0dB(通常使用の場合)であることをチェックしてください。

### メモ

通常の設定や安全な耐荷重は、dBTechnologies Composerソフトウェアで確認することができます。

(18ページの「dBTechnologies Composerソフトウェアについて」を参照)

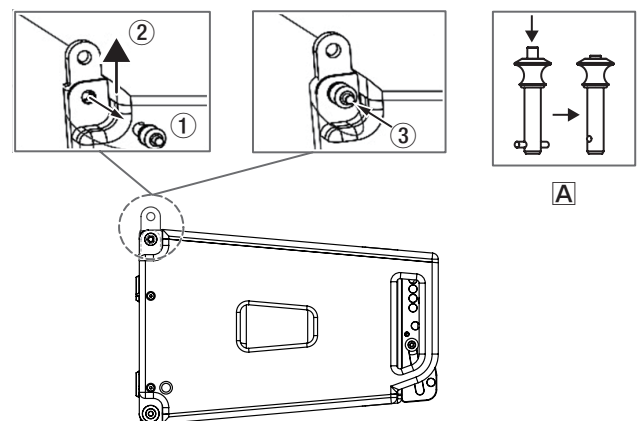
### 注意

ここで紹介する設置方法以外で、絶対に設置しないでください。指示を守らない場合、人がけがをしたり、機器が壊れたりする原因となります。

- 設置は、資格や経験を持った人(専門業者)が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)
- 本体のハンドルや本体ブラケットを使って本機器を吊るさないでください。
- 別売りアクセサリを安全にお使い頂くために、使用前など定期的にしっかりと固定・組み立てられているかチェックしてください。(弊社は、不適切なアクセサリの使用、または追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)
- スピーカーは、必ず安定した場所に確実に設置してください。
- 安全上の理由により、適切な固定方法を用いることなくスピーカーを重ねて設置しないでください。
- スピーカーを吊り下げる場合は、すべての部品をチェックし、ダメージ・変形・歪み・欠落がないか確認し、設置中の安全に問題がないことを確認してください。
- スピーカーを重ねる場合、指定の荷重や台数を超過の設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。

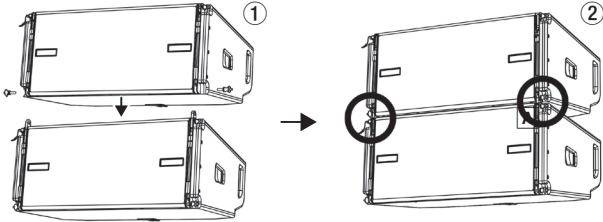
## ラインアレイ構成による本機の連結

1. 本機のフロント上部(左右)のクイックリリース・ピン(下図①)を外し、格納式ブラケット(下図②)を持ち上げてください。ブラケットの穴位置を接合用取付け穴と合わせて、クイックリリース・ピン(下図③)を差し込んで固定してください。(クイックリリース・ピンの固定/解除方法は、図Aを参照してください。)

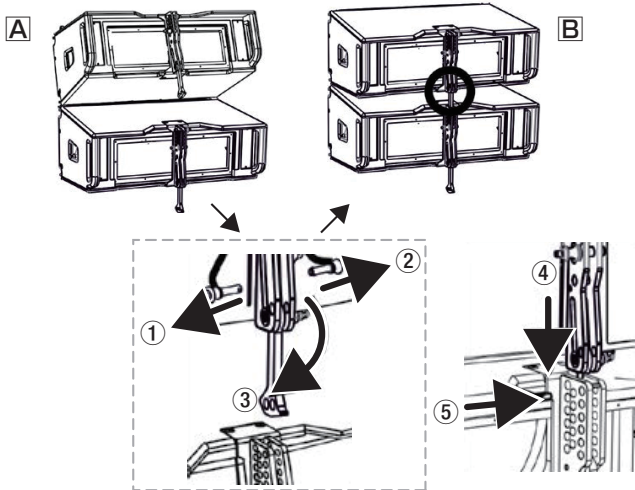


- 上側になるスピーカーのフロント 下部の取付け穴(左右)からクイックリリース・ピンを外し、上側と下側のスピーカーを重ね(下図 ①)、フロントの格納式 ブラケットの位置と合わせてください。(下図 ②)

上側のスピーカーで外したクイックリリース・ピンを取付け穴(左右)に固定(下図 ③)し、上下のスピーカーを連結してください。(下図 ④)



- 上側のスピーカーを少し持ち上げ(下図 ①)、リア 部の目盛り付きブラケットからクイックリリース・ピン(下図 ①②)を外して、スイング式 ブラケット(下図 ③④)を起こし、下側のスピーカーに差し込んで(下図 ⑤)ください。



**注意**

- 続けて本機を連結する前に、重ねたスピーカーの全てのクイックリリース・ピンが、正しく差し込まれて、確実に固定されているか確認してください。  
指定の荷重や台数を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。
- dBTechnologies Composerソフトウェアを使用すると、設置する方法によって、安全な耐荷重を確認することができます。(18 ページの「dBTechnologies Composerソフトウェアについて」を参照)

**吊り下げ設置 (FLOWN INSTALLATION)**

別売りの吊り下げフレーム(以降、「フライバー DRK-208」と称します)を使って、本機を吊り下げ設置することができます。

**注意**

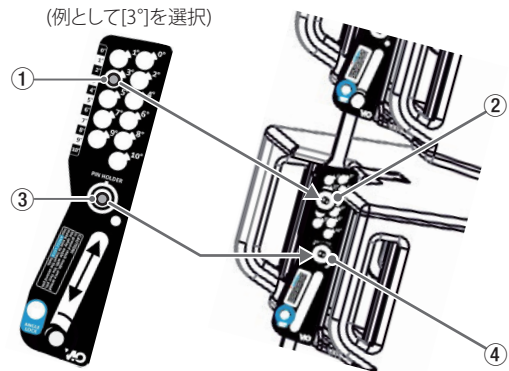
設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か、安定した場所なのか必ず、確認してから行ってください。

(フライバー DRK-208の最大耐荷重は、最大260 kgです。)

- 6 ページの「ラインアレイ構成による本機の連結」手順に続いて、下側のスピーカーのリア部にある目盛り付きブラケットの位置決め穴(下図 ①)から希望する角度[0°~10°]を選択し、その穴に2本あるクイックリリース・ピンのどちらか1本で固定してください。(下図 ②)

**メモ**

dBTechnologies Composerソフトウェアを使用するとラインアレイ構成に応じた最適角度が表示されます。



残ったクイックリリース・ピンは、目盛り付きブラケットの[PIN HOLDER](下図 ③④)の穴に固定し、紛失しないようにしてください。

- 続けてその他のスピーカーにも上記の手順で、希望する角度を設定してください。

**注意**

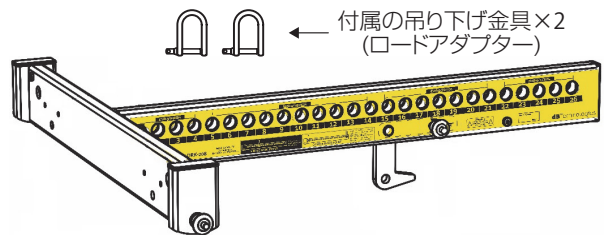
フライバー DRK-208に本機を結合する前に、重ねたスピーカーの全てのクイックリリース・ピンが、正しく差し込まれて、確実に固定されているか確認してください。

**吊り下げフレームに取付け**

- 全てのスピーカーの連結が完了後、最上段の本機をフライバー DRK-208に取付ける準備をします。

下図を参考にフライバー吊り下げ金具(以降、「ロードアダプター」と称します)をフライバー DRK-208に固定します。

**フライバー DRK-208 吊り下げ金具(ロードアダプター) 取付け-1**



**メモ**

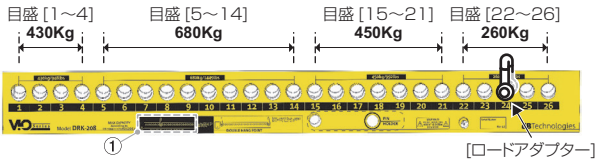
dBTechnologies Composerソフトウェアを使用するとラインアレイ構成に応じたロードアダプターの取付け位置が表示されます。

4. 吊り下げ設置時に**フライバー DRK-208**を、1本または2本のワイヤーで巻き上げる場合、それぞれの**ロードアダプター**の固定箇所が異なります。下図を参考に適切な取付け位置に固定してください。

- 1本のワイヤーで巻き上げる場合：下図 **A** を参照
- 2本のワイヤーで巻き上げる場合：下図 **B** を参照

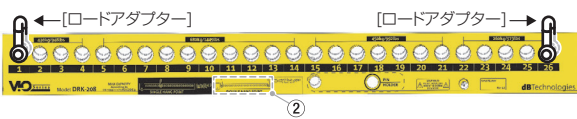
**フライバー DRK-208 吊り下げ金具(ロードアダプター) 取付け-2**

**A**：1本のワイヤーで吊り下げる場合



\* ロードアダプターは、吊り下げ荷重(最大 260 kg)に対応する目盛りの穴に固定してください。(①のラベルを参照)

**B**：2本のワイヤーで吊り下げる場合



\* ロードアダプターは、必ずフライバーの両端の穴に固定してください。(②のラベルを参照)

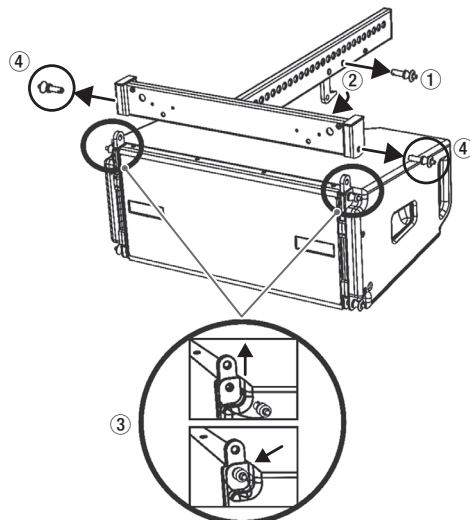
**注意**

- **フライバー DRK-208**の最大耐荷重は、最大 260 kg です。指定の荷重や台数を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。
- 通常の設置や安全な耐荷重は、**dBTechnologies Composer**ソフトウェアで確認することができます。

5. 下図を参考に**フライバー DRK-208**からリア部のクイックリリース・ピン(下図 ①)を外し、取付けブラケット(下図 ②)を引き出します。

- 次に、本機のフロント上部(左右)のクイックリリース・ピンを外し、格納式ブラケットを持ち上げて、外したクイックリリース・ピンで、格納式ブラケットを固定してください。(下図 ③)
- その後、**フライバー DRK-208**のフロント部のクイックリリース・ピンを外し、本機の格納式ブラケットの取付け穴と**フライバー DRK-208**の取付け穴を合わせ、クイックリリース・ピンで固定します。(下図 ④)

**フライバー DRK-208のスピーカー取付\_1**

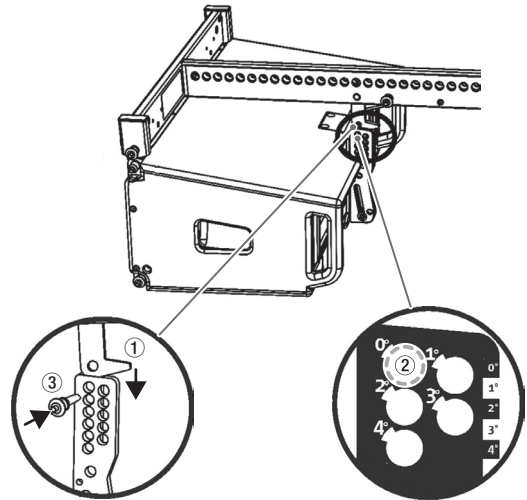


6. 続いて、**フライバー DRK-208**の取付けブラケット(下図 ①)を本機リア部の目盛り付きブラケットに差し込み、ブラケットの位置決め穴から角度[0°~10°](下図 ②)の範囲を選択してクイックリリース・ピンで固定します。(下図 ③)

**メモ**

**dBTechnologies Composer**ソフトウェアを使用するとラインアレイ構成に応じた目盛り付きブラケットの位置決め穴の角度[0°~10°]が表示されます。

**フライバー DRK-208のスピーカー取付\_2**



本機リア部の目盛り付きブラケットの位置決め穴から0°~10°を選択し、クイックリリース・ピンで**フライバーDRK-208**の取付けブラケットに接続してください。

詳細は、**フライバー DRK-208**の取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。(20 ページの「アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先」を参照)



## 台車による運搬とフライバー DRK-208の設置

別売りの台車(以降、「トローリー DT-VIOL208」と称します)で、ラインアレイ構成のスピーカーを設置場所まで運搬し、そのまま取付けまで可能です。

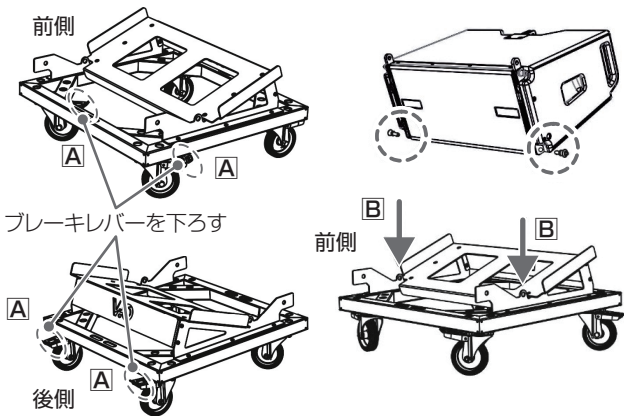
### 注意

- 台車で本機を一度に運べる数量は、最大4台です。
- 設置は、資格や経験を持った人(専門業者)が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。また、安全上の理由から設置作業は必ず、2名以上で作業を行ってください。

下記の手順は、フライバー DRK-208とトローリー DT-VIOL208を組み合わせた運搬例です。

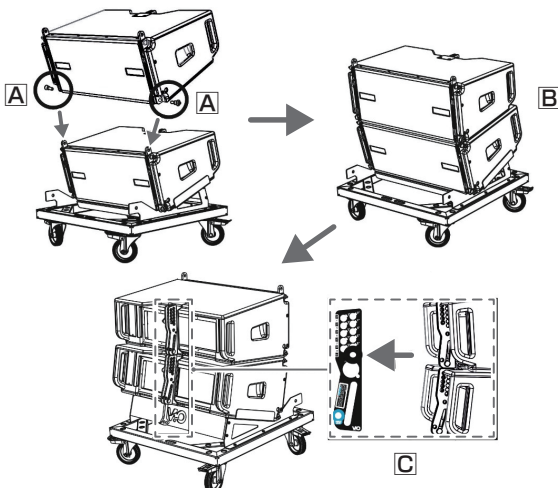
### 1. トローリー DT-VIOL208の車輪に、前後4箇所の車輪ブレーキ(下図 A)を掛け、最初の本機をセットします。

本機のフロントの左右の取付け穴とトローリー DT-VIOL208の前側の左右の取付け穴を合わせ、クイックリリース・ピンで固定します。(下図 B)



### 2. ラインアレイ構成で必要な台数を載せます。(最大積載数4台)

- 下図を参考に、ラインアレイ構成する2台目以降の組み立てを行います。
- 下側になる本機 フロントの格納式 ブラケット(左右)を持ち上げ、積載する上側の本機取付け穴(左右)を合わせ、クイックリリース・ピンで固定します。(下図 A、B)
- 次に、上側の本機を少し持ち上げ、リア部の目盛り付きブラケットからクイックリリース・ピンを外して、スイング式ブラケットを起こし、下側の本機の目盛り付きブラケットに差し込んで、ブラケットの位置決め穴から希望する角度の穴を選択し、その穴に2本あるクイックリリース・ピンのどちらか1本で固定してください。(下図 C)



- 残ったクイックリリース・ピンは、目盛り付きブラケットの [PIN HOLDER] の穴に固定し、紛失しないようにしてください。

組み立ての詳細は、6 ページの「ラインアレイ構成による本機の連結」を参照してください。

### 注意

作業完了後、全てのクイックリリース・ピンが、本機に正しく差し込まれて、確実に固定されているか確認してください。

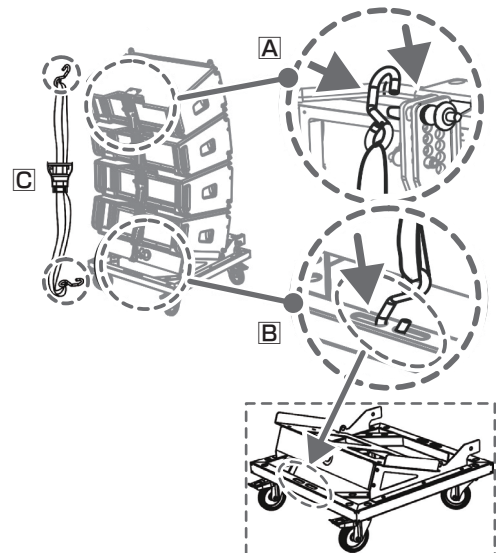
### メモ

dBTechnologies Composerソフトウェアを使用するとラインアレイ構成に応じた最適角度が表示されます。

### 3. トローリー DT-VIOL208には、フライバー DRK-208と積載した本機(以下、ラインアレイ構成にした本機を「L208モジュール」と称します)を同時に運搬が可能です。

運搬時の安全を守るため転倒防止用に、付属のラチェット付き固定ベルトとフライバー DRK-208を下図を参考に取付けます。

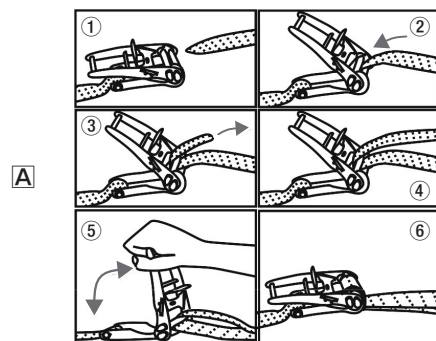
- 固定ベルトの片側(金具部分)を本機、最上段の目盛り付きブラケットの内側のクイックリリース・ピンの中央部に掛けます。(下図 A)
- 次に、固定ベルトの反対側(金具部分)をトローリー DT-VIOL208のリア部のフレーム 枠に掛けます。(下図 B)



### 固定ベルトの巻き上げ

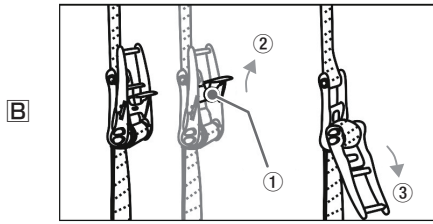
下図 Aの①～④を参考に、ラチェット部にベルトをセットし、ベルトの長さを積載した[L208モジュール]のサイズに合わせます。下図⑤を参考にラチェットハンドルを数回動作させ、ベルトの緩み(\*)がなくなるまで、巻き上げます。

※ ベルトを締めすぎると本体の破損や変形が起こる可能性があります。その場合、不具合の原因になりますので、ご注意ください。巻き上げ後、下図⑥を参考にラチェットハンドルを折りたたんでください。

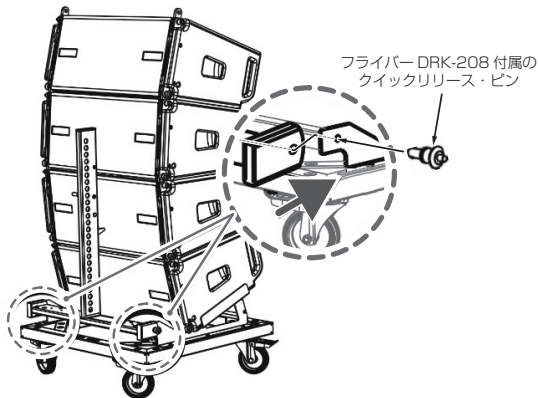


● 固定ベルトの解除

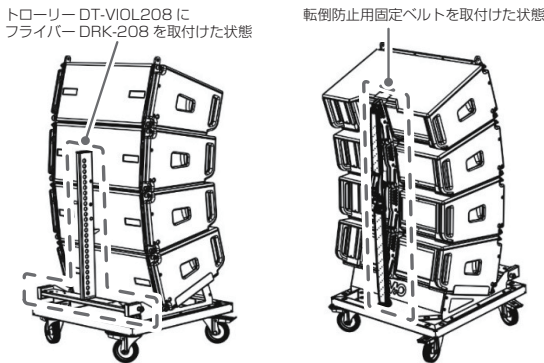
下図 B を参考に①のロックを②の方向に引き上げ、ロックが外れたら、ラチェットハンドルを③の方向に起こします。



- [L208モジュール]の積載が完了したトローリー DT-VIOL208の前側所定の位置(下図参照)に、フライバー DRK-208をクイックリリース・ピンで取付けます。



4. 作業が完了後、下図を参考にトローリー DT-VIOL208に取付けたフライバー DRK-208と固定ベルトに、緩みやガタが無い確認してください。



続けて、本機に接続するラインアレイ構成がある場合は、手順[1.~4.]で組み立ててください。

5. トローリー DT-VIOL208の前後の車輪 ブレーキを解除して、設置場所まで運搬後、もう一度 トローリー DT-VIOL208を前後の車輪 ブレーキで固定します。

**注意**

- 本機を設置する前に、[L208モジュール]の連結部分にある全てのクイックリリース・ピンが、正しく差し込まれて確実に、固定されているか確認してください。
- 設置部分の強度が、機器の総重量に十分対応可能か確認してください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)

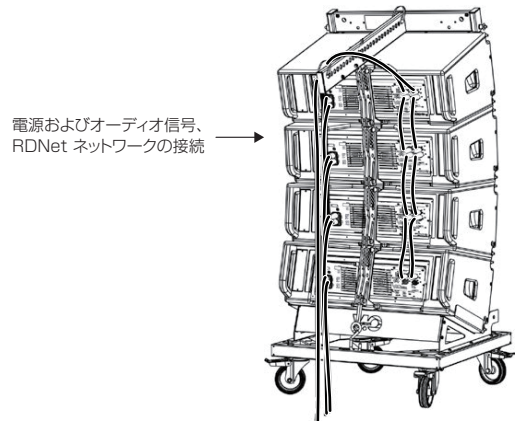
6. トローリー DT-VIOL208に取付けたフライバー DRK-208と固定ベルトを取り外します。

[L208モジュール]の最上段の本機にフライバー DRK-208を取付けます。

(フライバー DRK-208の取付けについては、7ページの「吊り下げフレームに取付け」を参照してください。)



7. 次に、15ページの「電源および外部機器との接続」を参考に、電源およびオーディオ信号、RDNetネットワークの接続をデジチェーンで接続し、設置の準備を行ってください。必要であれば、入力感度調整/DSP設定(17ページを参照)も行ってください。



吊り下げ設置を行う前にdBTechnologies Composerソフトウェアを使用して、プロジェクトパラメーターを設定します。(18ページの「dBTechnologies Composerソフトウェアについて」を参照)

**注意**

- プロジェクトパラメーターから、1台目のマスター側となる本機のコントロール部で、その他のスピーカー本体やモジュールのパラメーターが正しく設定されていることを確認してください。  
詳細は、17ページの「ラインアレイ構成時におけるDSPプリセットの設定と最適化」を参照してください。
- また、RDNetネットワーク(dBTechnologies Networkソフトウェア)経由で接続すると、すべてのパラメーターをリアルタイムで遠隔操作することができます。  
この場合、設置前に本機および各モジュールの初期設定を物理的に複製保存することをお勧めします。  
RDNetネットワークの接続方法は、16ページの「RDNetの接続」を参照してください。

8. [L208モジュール] をトローリー DT-VIOL208から取り外せるように、トローリー DT-VIOL208と[L208モジュール]の最下部を固定したクイックリリース・ピンを解除後、フライバー DRK-208に取付けたロードアダプターにリフトアップ用吊り器具(市販のシャックルやスリングベルト等)を取付けてください。

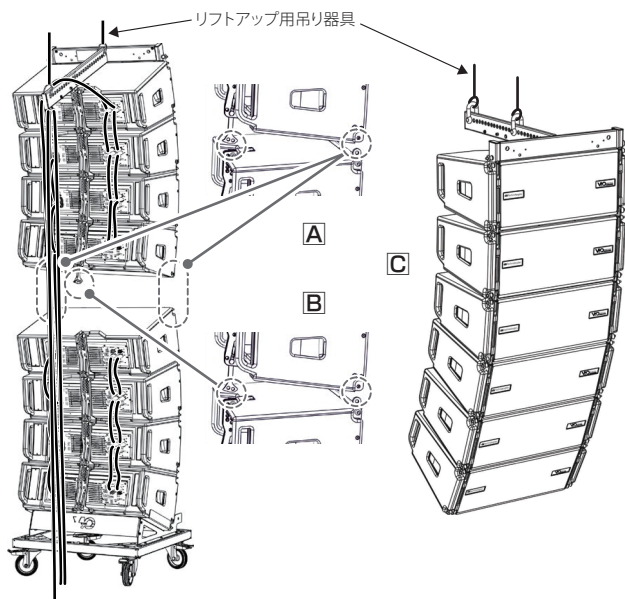
吊り下げ準備が完了したら、トローリー DT-VIOL208の車輪ブレーキを解除し、作業の邪魔にならない位置に戻してください。

9. 下記条件にて、[L208モジュール] を持ち上げてください。
- フライバー DRK-208のロードアダプターが、1点吊り下げの場合、1台の電動チェーンブロックを用意し、周囲の安全を確認してから、慎重に持ち上げてください。
  - フライバー DRK-208のロードアダプターが、2点吊り下げの場合、2台の電動チェーンブロックを用意して周囲の安全を確認してから、慎重に持ち上げてください。

10. ここで最初の[L208モジュール] に他の[L208モジュール]を追加する場合、フライバー DRK-208の取付けを除いた手順[5.~8.]まで行い、最初の[L208モジュール]を取付けやすい位置まで引き下げて、追加する[L208モジュール]を連結します。(下図 A、B参照)

連結後、連結部分にある全てのクイックリリース・ピンが、正しく差し込まれて確実に、固定されているか確認してください。(下図 C参照)

取付け完了後、追加した[L208モジュール]とトローリー DT-VIOL208を固定しているクイックリリース・ピンを解除し、トローリー DT-VIOL208の車輪ブレーキを解除し、作業の邪魔にならない位置に戻してください。



11. 設置箇所まで慎重に持ち上げたら、専用の固定用器具(ブラケットやクランプ)でしっかりと取付けてください。

#### 注意

- 安全で安定した運用のみならず、起こりうる自然現象も考慮し、ラインアレイを様々な手段で固定してください。
- 使用者は、本製品が使用されている国の安全に関する規制および法律を遵守する必要があります。  
安全な運用のために、使用前にすべての部品の動作と結合部を定期的にチェックしてください。
- 吊り下げて使用する場合やプロオーディオ・スタックの設計、計算、設置、テスト、メンテナンスは、認定された担当者が行ってください。

#### 他のラインアレイ構成(VIO L210)に吊り下げの場合

別売りの専用フレームを使用し、VIO L210ラインアレイ構成の補助スピーカーとして本機を設置できます。

#### 別売り専用フレーム

- TF-VIO1 (以降、「フレーム TF-VIO1」と称します)  
VIO L210専用吊り下げフレーム  
(吊り下げ時：ラインアレイ構成による(※))

- AF-VIO1 (以降、「フレーム AF-VIO1」と称します)  
フライバー/スタック兼用フレーム  
(吊り下げ時：ラインアレイ構成による(※))

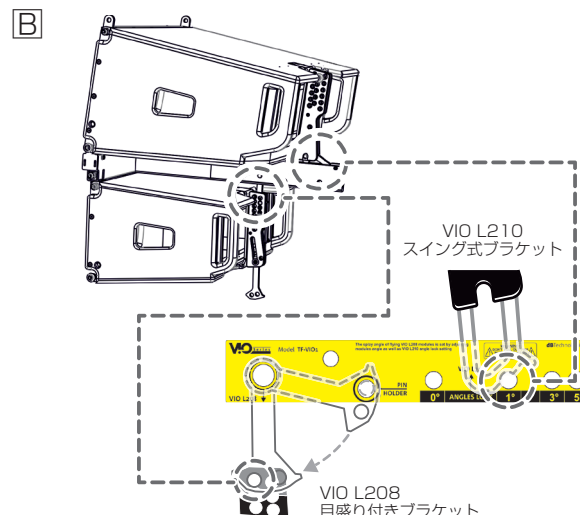
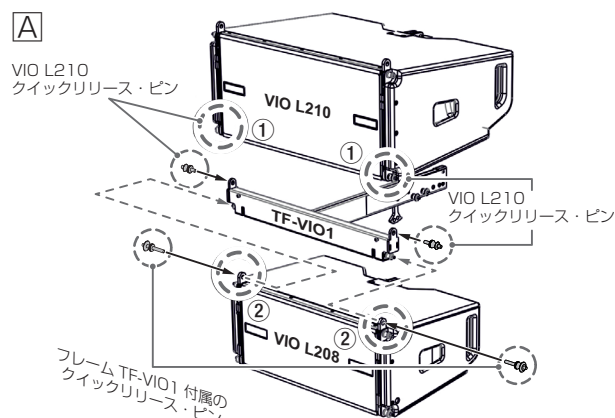
※ dBTechnologies Composerソフトウェアを使用すると、設置するラインアレイ構成に応じた数量を確認できます。

#### フレーム TF-VIO1を使用した吊り下げ設置

設置するVIO L210ラインアレイ構成の最下段に下図を参考にフレーム TF-VIO1を取り付けて、本機を吊り下げます。

1. フレーム TF-VIO1の所定の位置(下図 A参照)にVIO L210の前側下部のクイックリリース・ピン(下図①)を外して取付けます。
2. 本機の格納式ブラケットを引き上げて(下図②)、フレーム TF-VIO1付属のクイックリリース・ピン(下図 A参照)を取付けます。
3. フレーム TF-VIO1付属のクイックリリース・ピンでVIO L210のスイング式ブラケットを所定の位置に固定し、本機が目盛り付きブラケットを目的の角度(※)にして取付けます。(下図 B参照)

※ dBTechnologies Composerソフトウェアを使用すると、各ブラケット類の最適角度が表示されます。



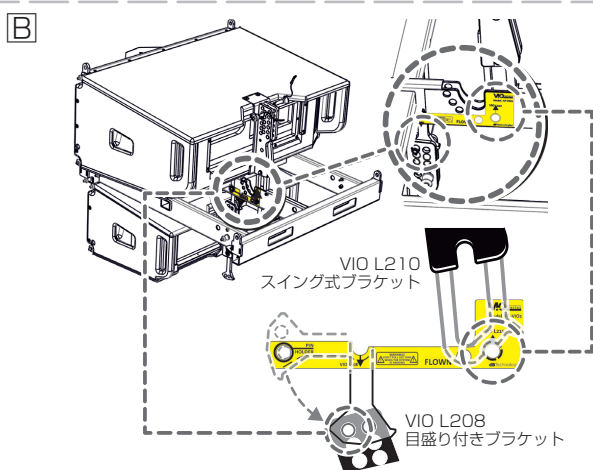
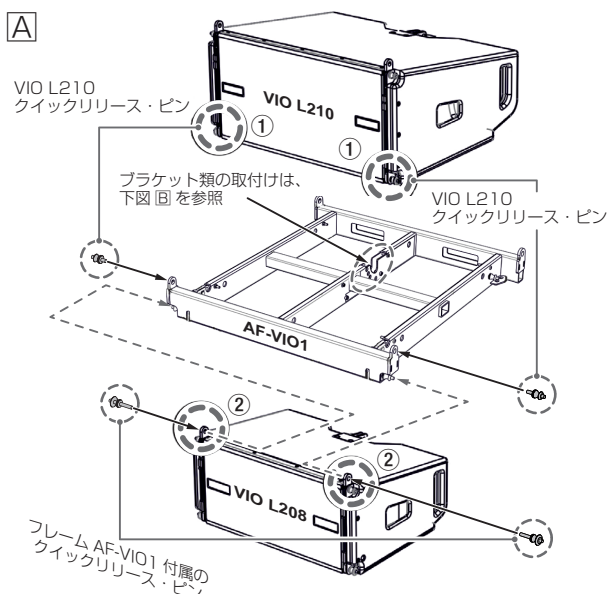


## フレーム AF-VIO1を使用した吊り下げ設置

設置するVIO L210ラインアレイ構成の最下段に下図を参考にフレーム AF-VIO1を取り付けて、本機を吊り下げます。

1. フレーム AF-VIO1の所定の位置(下図 A参照)にVIO L210の前側下部のクイックリリース・ピン(下図①)を外して取付けます。
2. 本機の格納式ブラケットを引き上げて(下図②)、フレーム AF-VIO1付属のクイックリリース・ピン(下図 A参照)で取付けます。
3. フレーム TF-VIO1付属のクイックリリース・ピンでVIO L210のスイング式ブラケットを所定の位置に固定し、本機の見盛り付きブラケットを目的の角度(※)にして取付けます。(下図 B参照)

※ dBTechnologies Composerソフトウェアを使用すると、各ブラケット類の最適角度が表示されます。



### 注意

- 本機のハンドルや本体ブラケットを使って本機を吊るさないでください。
- 作業完了後、全てのクイックリリース・ピンが、正しく差し込まれて確実に、固定されているか確認してください。

### メモ

別売りアクセサリの詳細は、指定ページからダウンロードして参照してください。(20 ページの「アクセサリの取扱説明書ダウンロード先」)

## 床置設置 (STACKED INSTALLATION)

別売りの専用 アクセサリを使用し、水平な床やサブウーファース上に本機を設置することができます。

### 別売り専用フレーム

- AF-VIO1 (以降、「フレーム AF-VIO1」と称します)

フライバー/スタック 兼用 フレーム

(床置時: 最大 4台/サブウーファース上: 最大 2台(※))

※ サブウーファース VIO S318/S218/S118/S118R に対応

### 専用スタックアダプター

- DSA-VIOL208 (以降、「アダプター DSA-VIOL208」と称します)

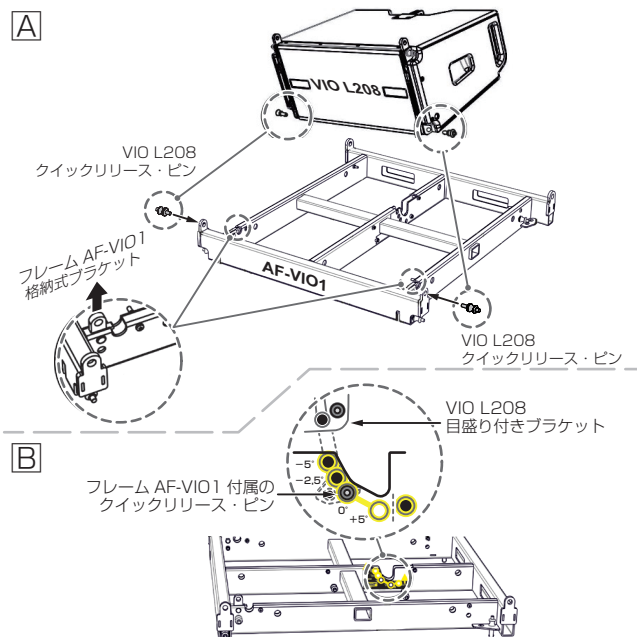
専用段積みアダプター

(ポールマウント時: 最大 2台/サブウーファース上: 最大 4台(※))

※ サブウーファース/S118R に対応

### フレーム AF-VIO1を使用した床置設置

1. フレーム AF-VIO1から格納式ブラケットを引き上げ、本機のクイックリリース・ピンで固定します。(下図 A参照)
2. 本機のスイング式ブラケットをフレーム AF-VIO1のセンターラダーにある[STACK(下図 B参照)]の位置に差し込み、希望する角度[-5°/-2.5°/0°/+5°]を選択し、クイックリリース・ピンでしっかりと固定します。



3. ラインアレイ構成で必要な台数を載せます。(最大積載数4台)

- 下側になる本機 フロントの格納式ブラケット(左右)を持ち上げ、積載する上側の本機取付け穴(左右)を合わせ、クイックリリース・ピンで固定します。
  - 次に、上側の本機を少し持ち上げ、リア部の目盛り付きブラケットからクイックリリース・ピンを外して、スイング式ブラケットを起し、下側の本機の見盛り付きブラケットに差し込んで、ブラケットの位置決め穴から希望する角度の穴を選択し、その穴に2本あるクイックリリース・ピンのどちらから1本で固定してください。
  - 残ったクイックリリース・ピンは、目盛り付きブラケットの[PIN HOLDER]の穴に固定し、紛失しないようにしてください。
- 組み立ての詳細は、6 ページの「ラインアレイ構成による本機の連結」を参照してください。

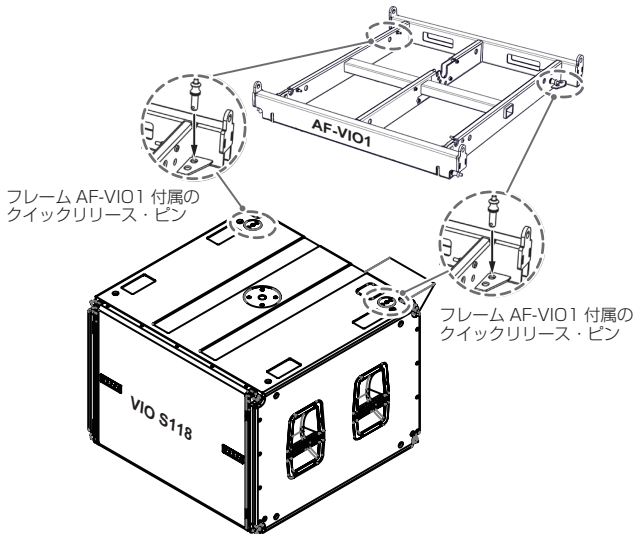
### 注意

作業完了後、全てのクイックリリース・ピンが、正しく差し込まれて確実に、固定されているか確認してください。



## フレーム AF-VIO1を使用したサブウーファー上の設置

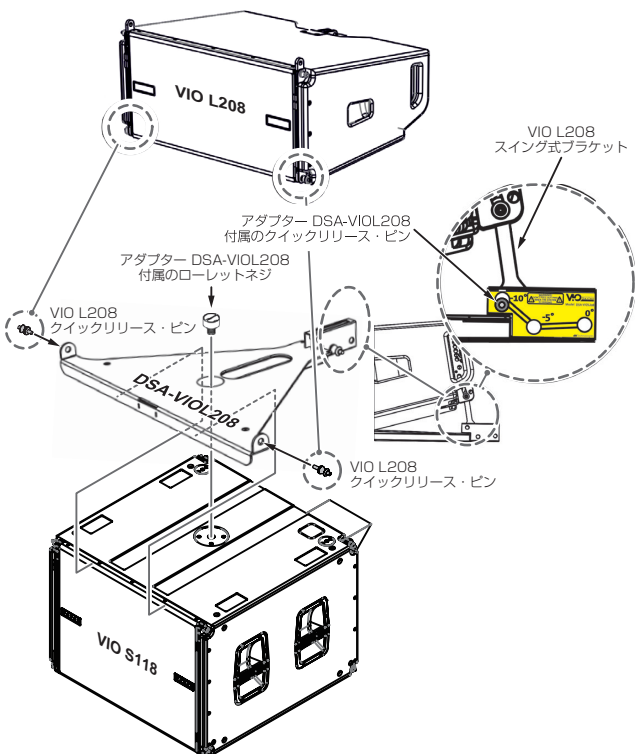
1. 下図(例としてVIO S118を使用)を参考に目的のサブウーファー上面の取付け穴に合わせて、フレーム AF-VIO1 付属のクイックリリース・ピンで固定します。(下図参照)



2. サブウーファー上に固定したフレーム AF-VIO1 に 12 ページの「フレーム AF-VIO1 を使用した床置設置」の[手順 3.]を参考に本機を設置してください。

## アダプター DSA-VIOL208を使用したサブウーファー上の設置 1

1. 下図(VIO S118を使用)を参考に目的のサブウーファー上面の取付け穴にアダプター DSA-VIOL208 を付属のローレットネジで固定します。
2. 固定したアダプター DSA-VIOL208 に 12 ページの「フレーム AF-VIO1 を使用した床置設置」の[手順 3.]を参考に本機を設置してください。



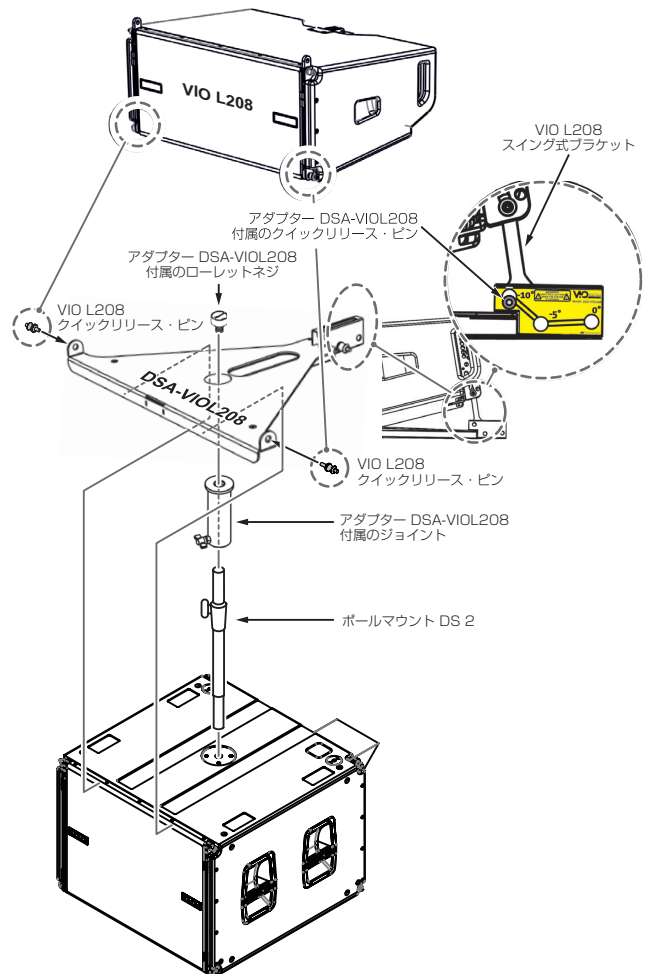
3. 次に本機のスイング式ブラケットをアダプター DSA-VIOL208 の後端にある位置決め部分に差し込み、希望する角度[ $-10^{\circ}$  /  $-5^{\circ}$  /  $0^{\circ}$ ]を選択し、クイックリリース・ピンでしっかりと固定します。

## アダプター DSA-VIOL208を使用したサブウーファー上の設置 2

1. アダプター DSA-VIOL208 と別売りのボールマウント DS 2(\*)を使用して、目的のサブウーファー上に本機を設置できます。

※ ボールマウント DS 2 を使用する場合、アダプター DSA-VIOL208 の積載数量は、最大 2 台になります。

2. 下図(VIO S118を使用)を参考にアダプター DSA-VIOL208 に付属のジョイントを同じく付属のローレットネジで固定します。  
次にアダプター DSA-VIOL208 のジョイントにボールマウント DS 2 を組み合わせて、サブウーファー上面の取付け穴に固定します。
3. サブウーファー上に固定したアダプター DSA-VIOL208 に 13 ページの「アダプター DSA-VIOL208 を使用したサブウーファー上の設置 1」の[手順 2.~3.]を参考に本機を設置してください。



### 注意

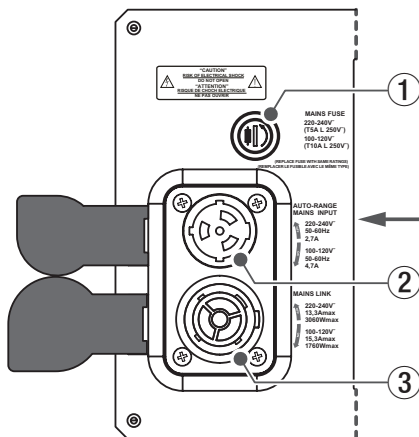
作業完了後、全てのクイックリリース・ピンが、正しく差し込まれて確実に、固定されているか確認してください。

### メモ

別売りアクセサリの詳細は、指定ページからダウンロードして参照してください。(20 ページの「アクセサリの取扱説明書ダウンロード先」)

## 各部の名称

### 電源パネル



#### ① MAINS FUSE

フューズホルダー

万一、動作しなくなった場合は、電源コードを抜いてティアック修理センター (巻末に記載) にご相談ください。

#### ② AUTO-RANGE MAINS INPUT

AC電源 端子 (Neutrik社製 powerCON TRUE1 端子)

専用のNeutrik社製 powerCON TRUE1 電源コード(別売り)を接続します。

#### 注意

- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

#### ③ MAINS LINK

電源リンク 端子 (Neutrik社製 powerCON TRUE1 端子)

他のアクティブスピーカーなどに電源を供給する端子で、**AUTO-RANGE MAINS INPUT** (②)端子とは、並列接続になっています。

ご使用時は、専用のNeutrik社製 powerCON TRUE1 LINKケーブル(別売り)をお使いください。

#### 注意

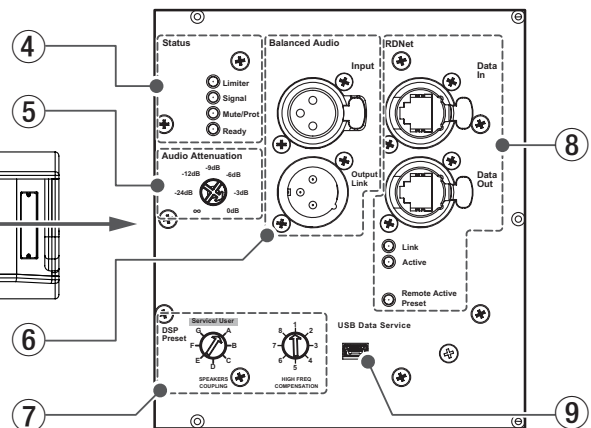
- 上記以外の方法で、他のアクティブスピーカーなどに電源供給を絶対に行わないでください。その場合、感電および機器を破損する恐れがあります。
- Neutrik社製のケーブルについては、タスカム カスタマーサポート(巻末に記載)にご相談ください。
- MAINS LINK**(電源Link 端子)の最大供給電流は、下記の表に記載してある許容範囲まで、スピーカーを接続することができます。

MAINS LINK 端子の最大供給電流 (AC100-120V時)

max 15.3 A / 1760 W

- ラインアレイ構成で電源リンクの接続ができるスピーカーの上限は、100V~120V時では、最大3台になります。
- 指定の台数を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。

### コントロールパネル



#### ④ Status

- **Limiter LED** (赤色)

入力信号の歪み音や他の不具合で内部リミッターが作動した場合に点滅します。

これは、アンプ回路が信号の歪みを防ぎ、ユニットが過負荷になるのを防ぎます。

#### 注意

**Limiter LED**が連続して点灯した状態は、入力信号の歪み音を伴う、過度の負荷がかかっている状態を示しています。そのままの状態、長時間連続使用しないでください。その場合、機器が壊れたりする原因となります。

- **Signal LED** (緑色)

オーディオ信号が入力されている時に点滅します。

その他の不具合で停止した場合は、消灯します。

- **Mute/Prot LED** (黄色)

電源投入時に数秒間点灯し、正常な状態で動作している時は消灯しています。

アンプ内部の温度をモニターし、オーバーヒートの保護回路が作動した場合、**Mute/Prot LED**(黄色)が点滅することで知らせます。適正な内部温度になってから、音量と全ての機能は元通りに復帰し、消灯します。

その他の不具合で停止した場合は、点灯します。

- **Ready LED** (緑色)

正常に状態で動作している時に点灯します。

その他の不具合で停止した場合は、消灯します。

#### ⑤ Audio Input Sensitivity

入力感度調整ボリューム

アンプ部に入力する信号の感度を調整します。

電源を投入する前は必ず、0dBに設定してください。

## ⑥ Balanced Audio

### ● Input

XLR 端子によるアナログバランス入力 端子で、ラインレベルのバランス信号入力が可能です。

### ● Output/Link

XLR 端子によるアナログバランス出力 端子で、他のアンプ内蔵スピーカーにバランス信号を送出します。

## ⑦ DSP Preset

ラインアレイ設定用DSPコントロールセレクター

### ● SPEAKERS COUPLING (低域調整)

ラインアレイを構成するスピーカーの数に、合わせて低域を調整します。

[A]~[G] : 5段階の設定が可能です。

### ● HIGH FREQ COMPENSATION (高域補正)

設置方法やラインアレイの角度に合わせて中高域を調整します。

[1]~[8] : 8段階の設定が可能です。

DSPプリセットの設定方法の詳細は、17 ページの「ラインアレイ構成時におけるDSPプリセットの設定と最適化」を参照してください。

## ⑧ RDNet (etherCON 端子)

データネットワーク接続の入出力です。

ネットワーク接続で入力感度調整やDSP制御を行うことが可能です。(スピーカー単体での設定は、使用されません。)

### ● Data in

別売りのネットワークコントローラー RDNet Control 2またはControl 8に接続します。

### ● Data Out

ラインアレイ構成で他のスピーカーにデジチェーン接続して使用します。

### ● Link LED (黄色)

RDNetネットワークがデバイスを認識した場合に点灯します。

### ● Active LED (緑色)

RDNetネットワーク上でデータの通信を行っている際、点滅します。

### ● Remote Active Preset LED (緑色)

本機がRDNetネットワーク上で、制御(リモートコントロール)されている場合に点灯します。

RDNetネットワークの使用方法の詳細は、20 ページの「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」を参照してください。

## ⑨ Service Data

サービスデータ 端子 (Mini USB Bタイプ)

本機のF/Wをアップデートする際、使用します。

ダウンロード方法は、20 ページの「F/Wアップデート (USB Burner Manager ソフトウェア)」を参照してください。

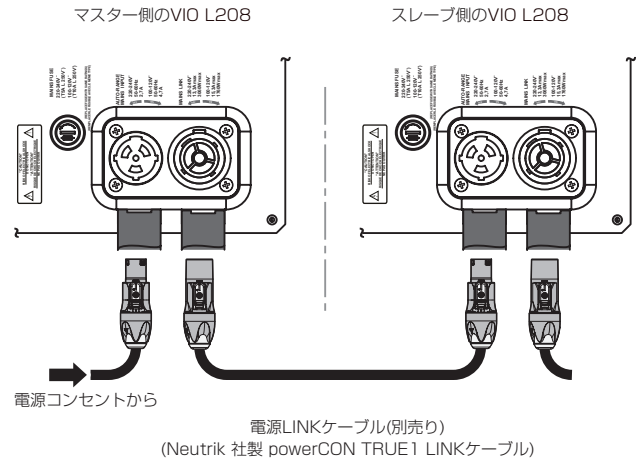
### 注意

電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にして下さい。

## 電源および外部機器との接続

本機は、複数の同一機種をデジチェーン接続でき、電源とオーディオ信号を1台目のスピーカー(マスター側)から2台目以降のスピーカー(スレーブ側)に供給することができます。

### 電源と電源リンクの接続



### 電源の接続

専用のNeutrik社製 powerCON TRUE1 電源コード(別売り)を **AUTO-RENGE MAINS INPUT**(AC電源 端子) に接続し、時計回りに端子を回転させてロックしてください。ロックされると電源が入ります。また、電源を落とす場合は、逆の手順で取り外してください。

### 注意

電源コードは、専用のNeutrik社製 powerCON TRUE1 電源コード(別売り)をご使用ください。それ以外のケーブルを使用すると感電およびスピーカーの動作に影響する場合があります。

### 電源リンクの接続

Neutrik 社製 powerCON TRUE1 LINK 端子は、マスター側からスレーブ側に専用電源LINKケーブルを使って、複数の同一機種に電源供給することができます。

この接続を行うには、まずNeutrik社製 powerCON TRUE1 電源コードを使って、マスター側コンセントに接続した後、Neutrik社製 powerCON TRUE1 LINKケーブル(別売り)を使って、マスター側の**MAINS LINK**(電源Link 端子)とスレーブ側の**AUTO-RENGE MAINS INPUT**(AC電源 端子)に接続します。

この接続を繰り返して、マスター側の**MAINS LINK**(電源Link 端子)の下側に記載された最大供給電流に達するまでスピーカーを接続することが可能です。

### 注意

- 濡れた手または、機器や電源コードが濡れた状態で、絶対に電源コードの接続や取り外しをしないでください。感電および機器を破損する恐れがあります。
- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

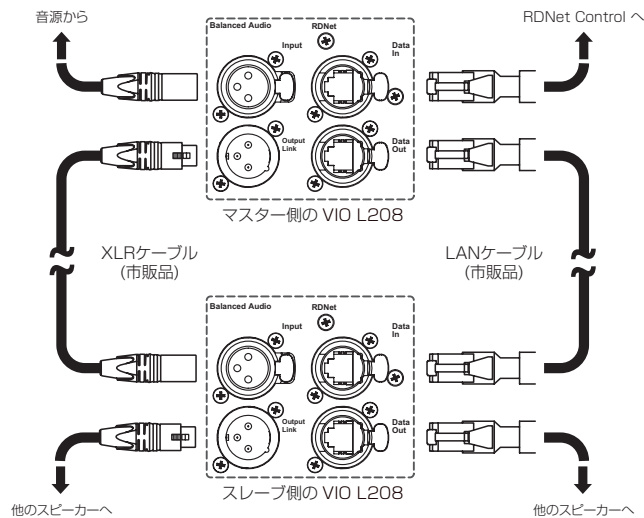
## オーディオ信号とRDNetの接続

### オーディオ信号の接続

2台以上のスピーカーを同一音源に接続する場合、マスター側からスレーブ側へ送することができます。

この接続を行うには、まず音源機器からマスター側のバランス入力 (Input 端子)に接続した後、バランスXLRケーブル (市販品) を使ってマスター側のバランス出力 (Output Link 端子) とスレーブ側のバランス入力 (Input 端子) に接続します。

この接続を繰り返すことで、以降のスピーカーを接続することができます。スピーカー配置に沿った接続が可能です。



### 注意

- 電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にして下さい。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。
- ラインアレイ構成でオーディオ信号の接続は、最上段の本機をマスター側として接続をしてください。

### RDNetの接続

本機をリモート操作をする場合は、別売りのネットワークコントローラー (RDNet Control 2やRDNet Control 8) を使用して、制御したいスピーカーのData In 端子 (etherCON 端子) にコントローラーからのLANケーブル (市販品) を接続します。

1つのラインアレイ構成全体を制御する場合、マスター側のData Out 端子からスレーブ側のData In 端子にLANケーブル (市販品) で接続します。

この接続を繰り返すことで、接続されたスピーカーを制御することができます。

同様に複数のラインアレイ構成がある場合、制御できるスピーカーの最大数は下記となります。

- RDNet Control 2 : 1ch/32台×2ch 最大64台
- RDNet Control 8 : 1ch/32台×8ch 最大256台

RDNetネットワーク上に接続した機器が認識された場合、Link LEDが点灯します。

### 注意

本機をネットワーク接続で制御をする場合、入力感度調整/DSP等の設定は、ネットワークでの設定が優先されます。(スピーカー単体での設定は、使用されません。)

RDNetネットワークの使用の詳細は、20 ページの「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」を参照してください。

## RDNetネットワーク 接続によるリモートコントロール

- dBTechnologies Networkソフトウェア (Ver.3.4.0以降を推奨) を使用して、プロジェクトパラメーターを設定してください。



- 1台目のマスター側となる本機のコントロール 部で、ローカルパラメーターが正しく設定されていることを確認してください。
- オーディオ信号のデジチェーン接続、RDNet接続、電源リンク 接続を行います。(詳細については、15 ページの「電源および外部機器との接続」を参照してください。)
- 電源投入時は、21 ページの「仕様」に記載されている突入電流に注意してください。  
(例えば、電源設備の容量計算や、各サブウーファースのディレイ電源オンの検討など)
- RDNetとdBTechnologies Networkソフトウェアによるリモートコントロールの場合、ローカル 設定はバイパスされてdBTechnologies Networkソフトウェアによってすべて制御されます。
- これら全てのパラメーターは、RDNet接続が正しく行われた後、dBTechnologies Networkソフトウェアを使用することで、本機側で設定するよりも、リモートコントロールで多くのパラメーターを制御できます。  
(18ページ、20ページを参照してください。)
- dBTechnologies Networkソフトウェアの使用時でも、本機へ最後に保存された設定は、⑦「DSP Preset」のSPEAKERS COUPLINGセレクターをService/Userの位置に合わせることでRDNetリモートコントロール 機器を用いることなく、本機から呼び出すことができます。

### 注意

本機をネットワーク接続で制御をする場合、本機の設定は使用されません。ネットワーク経由での設定が優先されます。

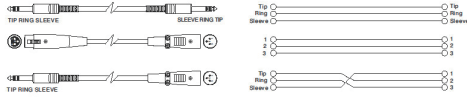
但し、⑦「DSP Preset」のSPEAKERS COUPLINGセレクターをService/Useの位置にすると本機の設定で動作します。



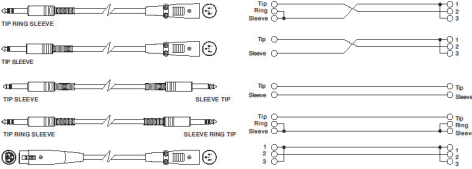
## 適合ケーブル

本機に適合するオーディオケーブルには、以下のタイプがあります。

### バランスケーブル



### アンバランスケーブル



### 注意

- ケーブルの接続/取り外しは必ず、電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

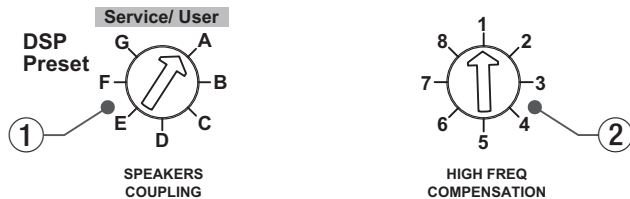
## ラインアレイ構成時におけるDSPプリセットの設定と最適化

ラインアレイ構成は、様々な使用状況において多数の利点をもたらします。

- 中長距離で特に効果の大きい、スピーカーのフロント方向に沿った均質な音圧レベル(max SPL 133.5 dB)を出力可能です。
- 反響しやすい大きな空間における、不要な音の分散を抑え、オーディエンスに正確にフォーカスした指向性を確保しています。ラインアレイの最適化は、低域、中域、高域ごとに音の特性を調整します。
- ラインアレイからの距離が離れると、距離に起因する減衰も増加し、特に高域の減衰は顕著になります。
- ラインアレイの角度が増えると、中域の減衰効果が強くなります。
- ラインアレイのスピーカー数が増えると、低域が目立つようになります。

DSP制御によるコントロールで、ラインアレイ構成時における本機を最適な状態にします。

下図のDSPプリセット部に2つ(低域 ①、中高域 ②)の調整用コントロールセレクターを搭載し、ユーザーインターフェースは、シンプルかつ直感的です。



SPEAKERS COUPLING		
NUMBER OF CABINETS	2 → 6	A
	7 → 8	B
	9 → 10	C
	11 → 12	D
	13 → 14	E
	more than 15	F
	Bass boost	G
service/user		

HIGH FREQ. COMPENSATION		
THROW DISTANCE m [ft]	FLAT	1
	front fill 0 → 10 [32]	2
	11 [33] → 20 [66]	3
	21 [67] → 30 [98]	4
	31 [99] → 40 [131]	5
	41 [132] → 50 [164]	6
	more than 50 [165]	7
	DOWN FILL	8

本機背面ラベル

## SPEAKERS COUPLING (低域調整)

ラインアレイを構成するスピーカーの数に合わせて、低域を調整します。

スピーカーカップリング(Speaker Coupling)を下のリストA~Gの中から選んで設定してください。

- A : 2~6台
- B : 7~8台
- C : 9~10台
- D : 11~12台
- E : 13~14台
- F : 15台以上
- G : 低域強調  
(スタンドアローンまたはフロントフィル使用時)
- Service/User : ユーザー設定優先時やUSB 端子を使ったファームウェアの更新時に使用します。

## HIGH FREQ COMPENSATION (高域補正)

設置方法やラインアレイの角度に合わせて、中高域を調整します。高域補正(High Freq Compensation)を下のリスト1~8の中から選んで設定してください。

### スタック設置時

1. フラット (全帯域においてフラットな状態にする場合)
2. フロントフィル 使用時 : オーディエンスとの距離が、1 m ~ 10 m の場合
3. オーディエンスまでの距離が 11 m ~ 20 m の場合
4. オーディエンスまでの距離が 21 m ~ 30 m の場合
5. オーディエンスまでの距離が 31 m ~ 40 m の場合
6. オーディエンスまでの距離が 41 m ~ 50 m の場合
7. オーディエンスまでの距離が 51 m ~ 60 m の場合
8. オーディエンスまでの距離が 61 m の場合

### 注意

本機をネットワーク接続で制御をする場合、入力感度調整/DSP等の設定は、ネットワークでの設定が優先されます。(スピーカー単体での設定は、使用されません。)

# dBTechnologies Composerソフトウェアについて

VIO シリーズをお使いになる場合に、無料のdBTechnologies Composerソフトウェアを併用されることをお勧めします。このソフトウェアを使用すると、狙ったカバレッジを実現するためのラインアレイ 構成のモジュール 角度の解析や、選択したエリアに合わせたラインアレイ 構成のシステム 設定が行えます。また、設置の安全性を確認するためのツールとしても有効で、**フライバー DRK-208**の静的動作をシミュレートすることで効率的に、耐荷重制限内での取付け可能なモジュールの数をあらかじめ確認することができ、ラインアレイモジュール 設置の安全性を確認できます。

dBTechnologies Composerソフトウェアのダウンロードは、**19 ページの「dBTechnologies Composerのダウンロード先」**を参照してください。

## dBTechnologies Composerの主な構成

- **Composer** : 設計データ入力 of 概要
- **LAs Predict** : ラインアレイ of 安全性チェック、構成、およびシミュレーション
- **SUBs Predict** : サブウファア of 安全性チェック、構成、およびシミュレーション

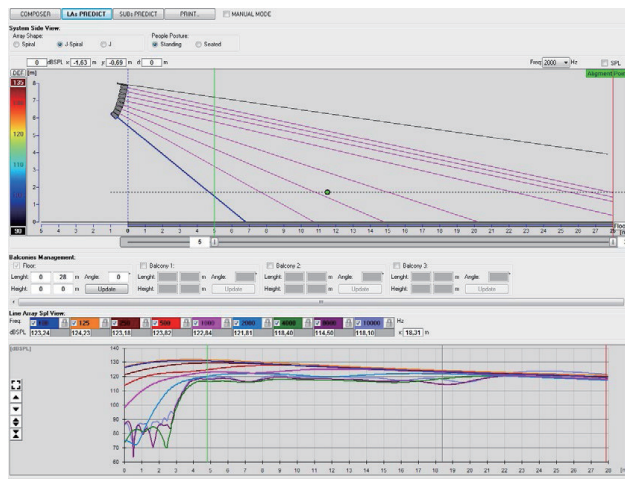
この章では、dBTechnologies Composer を使用したVIO S118と本機 of 組み合わせで、吊り下げ設置時 of 安全面や設置に関する説明になります。

LAs Predict 部には、VIOシステム of 適切な構成や、吊り下げ設置時または床置設置時に必要な全て of 情報が含まれています。

これらを利用するには、まず**Composer**セクションに含まれるプロジェクト of データを入力する必要があります。

- システムデータ of サブページには、さまざまなモジュール of 角度調整やDSPプリセットに関する様々なパラメーター、**フライバー DRK-208** of 角度調整など参考値があります。最終的な角度は、**フライバー DRK-208** of 取扱説明書(\*)に記載されているように、レーザー傾斜計を使用して現場で検出することができます。

※ **フライバー DRK-208**や設置用アクセサリ of 詳細については、**20 ページの「アクセサリ of 取扱説明書ダウンロード先」**から対象 of アクセサリ取扱説明書をダウンロードして参照してください。



**機種選択**

**設置方法選択**

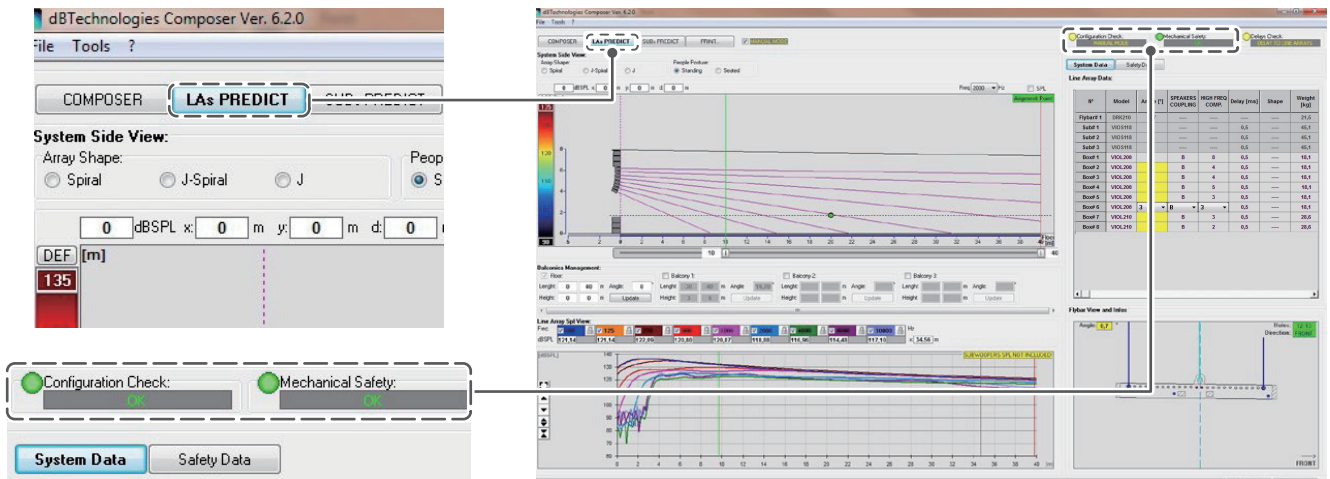
**ラインアレイ構成入力**

**Table of System Models**

N°	Model	Angle [°]	SPEAKERS COUPLING	HIGH FREQ COMP.	Delay [ms]	Shape	Weight [kg]
Flybar# 1	DRK210	0,7	---	---	---	---	21,5
Sub# 1	VIOS118	0	---	---	0,5	---	45,1
Sub# 2	VIOS118	0	---	---	0,5	---	45,1
Sub# 3	VIOS118	0	---	---	0,5	---	45,1
Box# 1	VIOL200	0	B	8	0,5	---	18,1
Box# 2	VIOL200	1	B	4	0,5	---	18,1
Box# 3	VIOL200	2	B	4	0,5	---	18,1
Box# 4	VIOL200	2	B	5	0,5	---	18,1
Box# 5	VIOL200	3	B	3	0,5	---	18,1
Box# 6	VIOL200	3	B	3	0,5	---	18,1
Box# 7	VIOL210	4	B	3	0,5	---	28,6
Box# 8	VIOL210	8	B	2	0,5	---	28,6

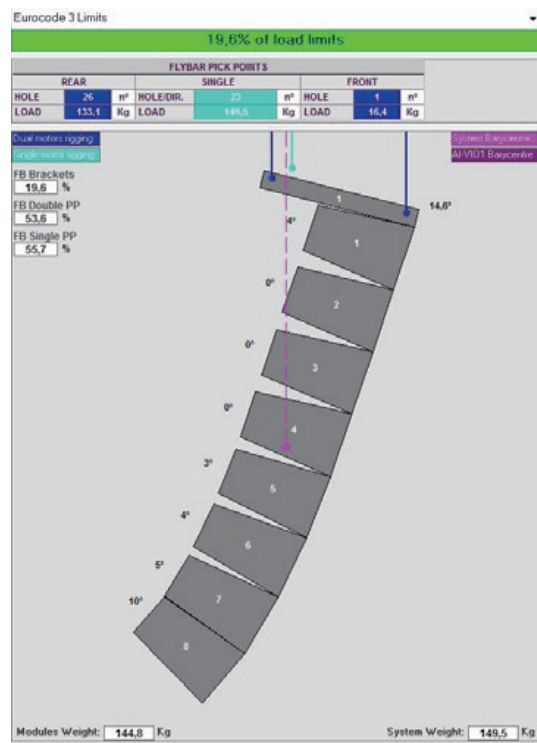
(dBTechnologies Composerソフトウェア イメージ図)

- セーフティーデータのセクションでは、**フライバー DRK-208**を使用した吊り下げ設置時の重心をシミュレーションで割り出すことができます。EUROCODE 3(またはBGV-C1規制)を選択して、シミュレーション結果が安全であれば緑色で表示、選択された角度の最大許容荷重を超えている場合(=基準値外のため使用禁止)は、赤色で表示されます。



吊り下げ設置時に1本のワイヤーのみで巻き上げる場合、**フライバー DRK-208**に貼られたラベルの目盛りの" SINGLE"の位置を利用してください。

2本のワイヤーで吊り下げる場合、**ロードアダプター**は、**フライバー DRK-208**の両端に配置して使用してください。



(フライバー DRK-208 シミュレーション)

## dBTechnologies Composerのダウンロード先

dBTechnologies社の下記ウェブサイトより、ソフトウェアをダウンロードできます。

<http://www.dbtechnologies.com/es/downloads.aspx>

ダウンロードページから"Software & Controller"の項目を開いて、上段の"Software"の列から対象となる名前の圧縮ファイル(zip形式)をダウンロードしてください。

- セットアップファイル: "dBTechnologies\_Composer\_setup\_x.x.x.zip"

"Software & Controller"の項目を開いて、上段の"Manuals"の列から対象となる名前のPDFファイルをダウンロードしてください。

- ソフトウェア取扱説明書: "Manual-dBTComposer\_REVx-x.pdf"

セットアップファイルを解凍後、ソフトウェア取扱説明書の手順に従って操作してください。

---

## dBTechnologies Networkについて

---

このdBTechnologies Networkはリモート操作する際に必要なソフトウェアです。

色々な構成時における本機をコントロールできます。

様々な状況におけるリアルタイム・モニターや、完全なリモート操作が可能で、例えばラインアレイ構成された本機と3台のサブウーファァーの設定や、全システムを稼動中に異なるパラメーターに変更するなどの操作が可能になります。

さらに、本機の詳細な設定や本体の操作部では、行えない項目までコントロール可能です。

dBTechnologies Networkを使うことで、以下のパラメーターを設定することができます。

- ミュート/ソノ切り替え※
- 入力アッテネーター
- スピーカー・カップリング
- 高域補正
- HPFプリセットフィルター ※
- ティレー ※

※ これらの項目は、dBTechnologies Networkからのみ設定できます。

---

## dBTechnologies Networkのダウンロード先

---

dBTechnologies社のウェブサイトのダウンロードページから、"Software & Controllerr"の項目を開いて、上段の"Software"の列から対象となる名前の圧縮ファイル(zip形式)をダウンロードしてください。

- セットアップファイル  
"db-Technologies-Network\_x\_x.zip"

"Software & Controllerr"の項目を開いて、上段の"Manuals"の列から対象となる名前のPDFファイルをダウンロードしてください。

- ソフトウェア取扱説明書  
"dBTechnologies-Network\_Section\_A\_REV.x.x.pdf"  
"dBTechnologies-Network\_Section\_B\_REV.x.x.pdf"  
"dBTechnologies-Network\_Section\_C\_REV.x.x.pdf"

セットアップファイルを解凍後、ソフトウェア 取扱説明書の手順に従って操作してください。

- ダウンロードページ  
<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

---

## リモート機器の取扱説明書ダウンロード先

---

リモート機器の取扱説明書については、dBTechnologies社のウェブサイトのダウンロードページから、"Software & Controllerr"の項目を開いて、上段の"Manuals"の列から対象となる名前のPDFファイルをダウンロードしてください。

- 取扱説明書
  - RNet Control 2  
"RNet CONTROL 2\_cod420120189\_Revx.x-MAN.pdf"
  - RNet Control 8  
"RNET CONTROL8\_cod420120183\_Revx.pdf"
- ダウンロードページ  
<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

---

## アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先

---

各アクセサリーの取扱説明書については、dBTechnologies社のウェブサイトのダウンロードページから、"Installation"の項目を開いて、上段の"Manuals"の列から対象となるアクセサリーのPDFファイルをダウンロードしてください。

- ダウンロードページ  
<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

---

## F/Wアップデート (USB Burner Manager ソフトウェア)

---

本機の全ての機能を確実に使うためには、F/W を常に最新のものにしておくことをお勧めします。

定期的にdBTechnologiesのウェブサイトのダウンロードページをチェックしてください。F/Wの更新が合った場合は、以下の手順でアップデートすることができます。

- ダウンロードページ  
<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>
- 1. 上記のDownloadページから"Software & Controllerr"を開いて、[USB BURNER MANAGER]ソフトウェアをダウンロードし、表示される手順に従ってインストールしてください。
- 2. 上記のDownloadページから"VIO"を開いて、上段の"Firmware"の列と対象となる"VIO"機種種の行から、最新のF/W (zip形式)をダウンロードしてください。  
ダウンロード後、解凍してください。
- 3. 本機とパソコンをUSBケーブル(別売り社外品)で接続してください。  
本機の通信用USB 端子は、14 ページの「各部の名称」を参照してください。
- 4. [USB BURNER MANAGER]ソフトウェアを起動し、画面右上から、"File Opening..."を選択してください。
- 5. 先程ダウンロードしたF/Wを選択してください。  
(お使いのシステムに最適かチェックします。)
- 6. UPDATEをクリックし、アップデート作業をスタートしてください。

### 注意

F/Wアップデート後の電源投入で、保存した各種設定が失われる場合があります。



## トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センターにご連絡ください。

### スピーカーの電源が入らない

- 電源機器をチェックして電源が供給されている事を確認してください。
- Neutrik社製 powerCON TRUE1 電源コードの端子が、しっかり接続されているか確認してください。

### スピーカーの電源は入るが、音が出ない

- 入力端子が正しく接続されており、Neutrik社製 powerCON TRUE1 電源コードを使用されているか、確認してください。
- ケーブルに損傷がないか確認してください。
- 接続した音源などのミキサーが電源が入っている状態で、オーディオ信号が出力されているか確認してください。
- 接続した機器や本機の入力感度調整ボリュームをチェックし、適正なボリューム位置に合わせてください。

### スピーカーからの音が歪んでいる、または十分な音量でない

- 入力感度調整ボリューム位置を適切な値に合わせてください。
- 使用しているケーブルに損傷がないか確認してください。損傷している場合は、新しいケーブルと交換してください。(不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは、新しいものと交換してください。)
- 再生音に影響するDSPプリセットの設定を確認してください。詳細は、17 ページの「ラインアレイ 構成時におけるDSPプリセットの設定と最適化」を参照してください。
- dBTechnologies NETWORK またはRDNetネットワーク、AURORA NET などのネットワーク経由で接続されている場合、全てのパラメーターが適切に設定されていることを確認してください。

### Mute/Prot LED (黄色)が点灯した場合

本機に不具合が発生した場合、Mute/Prot LED (黄色)が点灯し、音量がミュートします。

その場合、以下の項目をチェックしてください。

- 本機が正しく電源に接続されているか確認してください。
- 電源から適切な電圧が、供給されているか確認してください。
- アンプ部が過熱していないか確認してください。

これらのチェックをした後も、Mute/Prot LED (黄色)が消えない場合、タスカム カスタマーサポート(巻末に記載)にお問い合わせください。

## 仕様

### 形式

2-Way アクティブ ラインアレイモジュール

### スピーカーユニット

HF	: 1.4インチ ホーン型×1 (3インチ ボイスコイル採用)
LF	: 8インチ×2 (2インチ ボイスコイル採用)
指向性	
水平	: 100°

### アンプ部

形式	: Digipro G3 クラスD
出力	: 1800 W
RMS出力	: 900 W
冷却システム	: 自然対流式

### DSP部

コントローラー	: DSP 28/56 bit
AD/DA処理	: 24 bit/48 KHz
デジタルフィルター	: FIR フィルター
コントロール	: 入力感度調整ボリューム ×1 ロータリースイッチ ×2
リミッター	: デュアルアクティブピーク、RMS、サーマル

### 周波数特性

-6 dB時	: 75 Hz - 20000 Hz
±3 dB時	: 85 Hz - 18100 Hz

### 最大SPL (1 m)

133.5 dB (周波数やDSPプリセットによる)

### クロスオーバー周波数

Low/High	: 1000 Hz
----------	-----------

### 外部入力

Input 端子	: XLR 端子(メス) ×1 (バランス)
USB 端子	: mini-Bタイプ ×1
RDNet 端子	: etherCON 端子 ×1

### 外部出力

Output/Link 端子	: XLR 端子(オス)×1 (バランス)
電源Link 端子	: powerCON TRUE1 端子 ×1 (Neutrik社製) (最大供給電流: 15.3 A/1760 W)
RDNet 端子	: etherCON 端子 ×1

## 一般

### 電源

電圧 : AC 100 V~240 V(自動切替式)、50/60 Hz  
電源端子 : Neutrik社製 powerCON TRUE1 端子

### 注意

日本国内においては、AC100 Vのみ動作保証となります。  
(それ以外の電圧で、使用しないでください。)

### 消費電流

2.8 A : AC 100 V-120 V時 (※1)  
4.7 A : AC 100 V-120 V時 (※2)

- ※ 1 : 通常の使用状況で、フルパワー出力の1/8の場合の消費電力  
(音楽再生中にクリッピングがほとんど発生しない状態)  
いかなる構成時でもこれを最小値としてください。
- ※ 2 : 通常の使用状況で、フルパワー出力の1/3の場合の消費電力  
(音楽再生中にクリッピングとリミッターの作動が頻繁に発生  
する状態)  
プロ設備やツアーの場合は、これらの値に従ってサイジングを  
決めてください

### 消費電力

22 W (※3)

※ 3 : 電源オンで入力信号がない時

### 外形寸法

幅 x 高さ x 奥行き : 600×260×390 mm  
(突起部を含まず)

### 質量

: 18.1 kg

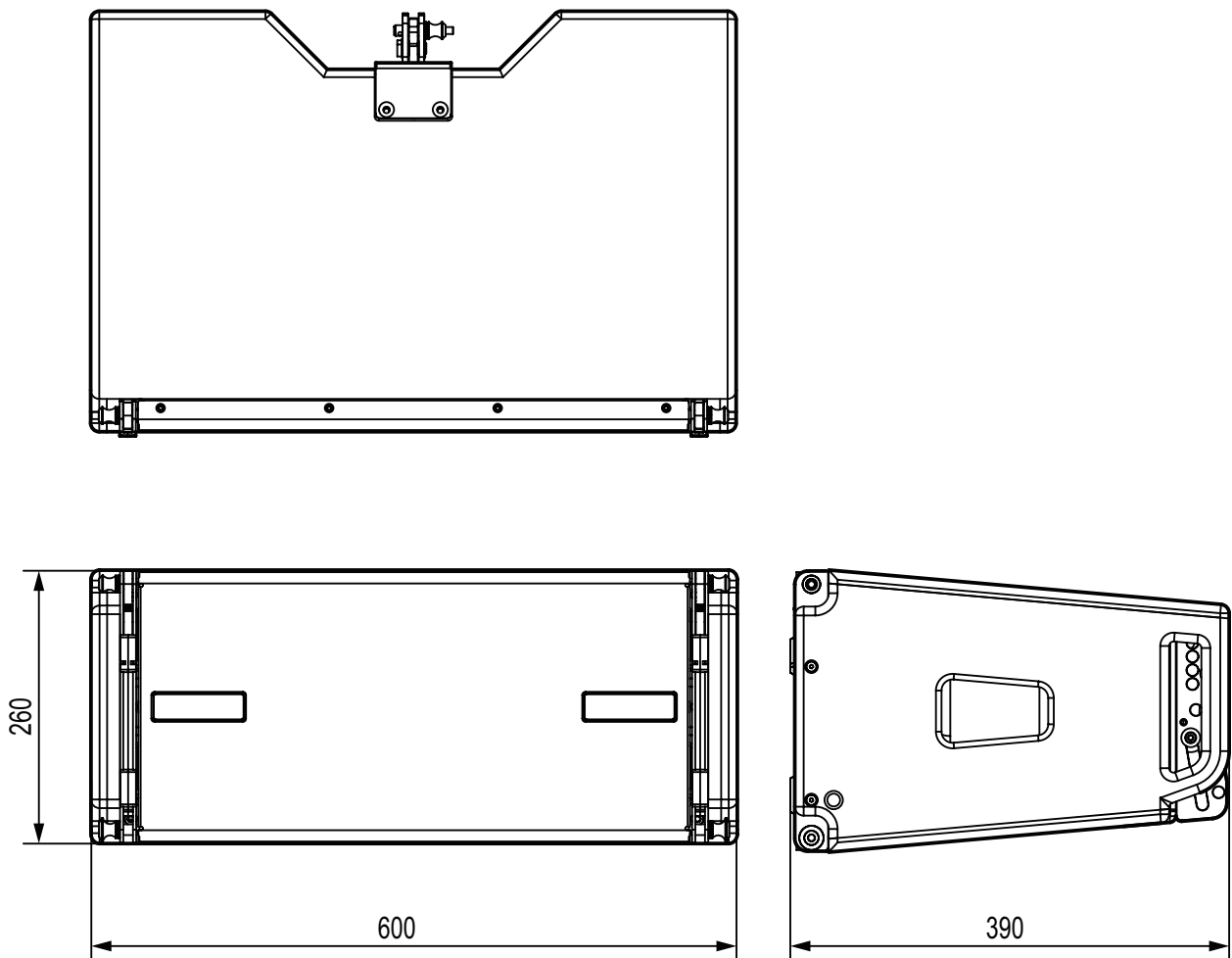
### エンクロージャー

筐体素材 : 合板 (黒ポリウレタコーティング)

### 動作温度

: -5 ~ +50 °C

## 寸法図



- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。



### 無料修理規定(持ち込み修理)

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。  
無償修理の対象は、お客さまが日本国内において購入された日本国内向け当社製品に限定されます。
3. ご転居、ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には、保証期間内でも有償修理となります。  
(1)ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷  
(2)お買い上げ後の輸送/移動/落下などによる故障および損傷  
(3)火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷  
(4)接続しているほかの機器に起因する故障および損傷  
(5)業務上の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷

(6)メンテナンス

(7)本書の提示がない場合

(8)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合

5. 本書は日本国内においてのみ有効です。  
These warranty provisions in Japanese are valid only in Japan.
6. 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※ この保証書は、本書に明示した期間/条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。



# ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47



## 0570-000-809

- 携帯電話、またはナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

受付時間は、10:00～12:00 / 13:00～17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

故障/修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858



## 0570-000-501

- 携帯電話、またはナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

受付時間は、9:30～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Printed in Japan

## 保証書

品名	dBTechnologies		
および 形名	VIO L208		
機番			
保証期間	本体	1年	
お買い上げ日	年 月 日		
お客様	お名前		
	ご住所		

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から左記の期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

販売店		
電話		

# 見本

お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただきます場合がございますので、ご了承ください。

## ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

ティアック修理センター

電話：0570-000-501(ナビダイヤル) / 04-2901-1033

1018 MA-2718A